

2025シラバス表紙 （夜間部）建築科夜間

科目	区分	1年		2年		単位数 合計
		前期	後期	前期	後期	
建築数学数理	必修	4				4
設計演習*1	必修			2		2
建築設計製図Ⅰ	必修	4				4
建築設計製図Ⅱ	必修		4			4
建築設計製図Ⅲ	必修			4		4
建築CAD演習Ⅰ*1	必修	2				2
建築CAD演習Ⅱ	必修		4			4
資格講座（CAD）*2	必修		2			2
資格講座（建築士設計製図）	必修				8	8
建築計画Ⅰ	必修	4				4
建築計画Ⅱ	必修		4			4
建築環境工学	必修	4				4
建築設備	必修			4		4
建築史*1	必修	2				2
資格講座（建築士計画）	必修				2	2
建築構造力学Ⅰ	必修		4			4
建築構造力学Ⅱ	必修			4		4
建築構造Ⅰ	必修	4				4
建築構造Ⅱ	必修		4			4
建築構法	必修	2				2
建築材料	必修	2				2
資格講座（建築士構造）	必修				2	2
建築施工Ⅰ	必修			4		4
建築施工Ⅱ	必修				4	4
建築測量演習*1	必修	2				2
品質管理*1	必修			2		2
資格講座（積算士補）	必修				4	4
資格講座（施工管理技士）*1	必修			6		6
資格講座（建築士施工）	必修				2	2
建築法規Ⅰ	必修		4			4
建築法規Ⅱ	必修			4		4
資格講座（建築士法規）	必修				2	2
単位数 合計		30	26	30	24	110

備考

- *1は、8月～9月期に集中講義を実施する。
- *2は、2月～3月期に集中講義を実施する。

授業科目名		昼夜別	開講期間等		必修選択	単位	担当教員名
建築数学数理		夜間	1 年 前 期		必修	4	伊藤 悦子
授業の方法	講義	担当教員実務内容		建築設計会社にて建築設計業務。一級建築士。			
授業目的 及び 到達目標	建築で使われる数学及び物理について、今後の建築科目の学習に必要な基礎知識や考え方を						
	修得することを目的とする。						
講義・演習 の内容	教科書、演習プリント及びスライド等を使い講義を行う。						
	建築において数学や物理をどのように利用していくかを学ぶ。						
	必要に応じて、演習や小テストの実施を行う。						
教科書	超入門 建築数理（市ヶ谷出版）						
参考書							
関連科目	数学及び物理が使われる科目						
	（建築法規、建築環境工学、建築設備、建築構造力学、建築構造設計、建築積算、測量学 等）						
成績評価 方法	中間試験・期末試験・必要に応じて行う小テスト・出席状況に基づき、						
	総合的に評価する。						
授業計画							
授業回・週	授業内容						
第1週	理解度確認テスト						
第2週	第1章 単位の仕組、様々な単位						
第3週	第2章 四則計算（階段の計算等）						
第4週	第2章 分数を含んだ計算（建ぺい率※・容積率等）						
第5週	第2章 比の計算・公式の代入（傾斜路・屋根勾配・採光面積・換気量※）、3章 直線角度						
第6週	第2章 公式の代入（断面の性質：断面一次モーメント・断面二次モーメント）						
第7週	第2章 比例・反比例（照明計算・熱損失）、問題演習（中間試験対策）と総まとめ						
第8週	中間試験						
第9週	第4章 1Dの建築事象（三角比・測量（水準測量））						
第10週	第5章 2Dの建築事象（面積計算）						
第11週	第6章 3Dの建築事象（体積計算）						
第12週	第7章 様々な事象（縮尺計算・天井高）						
第13週	第8章 測量（閉合比）、力の建築事象（力の合成分解）						
第14週	第8章 力の建築事象（力のモーメント、力のつりあい）、分布荷重						
第15週	問題演習（期末テスト対策授業）と総まとめ						
第16週	期末試験						

[illegible]

授業科目名	昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築設計製図Ⅰ	夜間	1 年 前 期	必修	4	荒田 寛
授業の方法	演習	担当教員実務内容	建設会社にて施工管理業務。一級建築士		
授業目的 及び 到達目標	建築物を設計、施工するにあたり、図面は設計者の意図を伝える重要な手段です。				
	そのため建築分野では、図面を正しく表現し意図を伝え、図面から意図を読み解く能力が必要です。				
	本科目では用具の説明・使い方、線の描き方から始め、線の強弱、各図面および記号の役割を学び、				
	木造（住宅）の基礎知識と線の意味を理解しながら製図技術を演習を通して学んでいきます。				
	後期建築設計製図Ⅱを通じて、定められた時間内にしっかりと仕上げる事を目指します。				
講義・演習 の内容	建築製図の基礎知識・技術を身に付けるために、テキストや資料を基として、線の引き方、製図				
	文字、製図記号の書き方を練習します。また、木造戸建て住宅の実例やトレースを通し、おおまかな				
	木造建築物の構造が理解できるように解説、演習を行います。				
教科書	定番 建築製図入門 大脇賢次 著				
参考書	コンパクト建築設計資料集成（丸善）ほか				
関連科目	建築設計製図Ⅱ・Ⅲ				
成績評価 方法	授業における課題の提出は必須とし、提出された課題の評価にて行います。				
	また、課題の提出期限、出席状況を重視します。				
授業計画					
授業回・週	授業内容				
第1週	用具購入・確認、用具説明、取扱い 線の説明、書き方演習				
第2週	建築製図の基礎知識全般 書き方演習（一級建築士試験図面を紹介）				
第3週	文字、数字の説明、演習 製図記号の説明①、演習				
第4週	製図記号の説明②、演習				
第5週	①木造住宅の解説と作成プロセスの解説（写真スライド等） ②演習（各部名称記入、敷地作図）				
第6週	①平面図の解説1 ②演習（柱壁、窓等）				
第7週	①平面図の解説2 ②演習（設備什器等）				
第8週	①断面図の解説1 ②演習（建物外形、寸法等）				
第9週	①断面図の解説2 ②演習（内部建具、寸法等）				
第10週	①立面図の解説1 ②演習（建物外形、寸法等）				
第11週	①立面図の解説2 ②演習（窓等）				
第12週	①矩計図の解説1 ②演習（躯体）				
第13週	①矩計図の解説2 ②演習（建具や内装仕上等）				
第14週	予備、矩計図の解説3				
第15週	①伏図の解説 ②演習（床伏図トレース）				
第16週	予備				

授業科目名		昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築設計製図Ⅱ		夜間	1 年 後 期	必修	4	荒田 寛
授業の方法	演習	担当教員実務内容	建設会社にて施工管理業務。一級建築士			
授業目的 及び 到達目標	建築設計製図Ⅰを基礎に、RC造およびS造を中心にした各種建築物の製図表現を学び、製図方法					
	および正確な線とスピードを習得することを目的とする。					
	建築図面としては、事務所ビル、コミュニティ施設のトレース等を主とし、課題に応じ自ら考え、設計が					
	行えるよう指導する。					
講義・演習 の内容	各種建築物の製図表現のポイントや描き方を講義形式で説明した上で、その後演習課題として、					
	RC造事務所ビル、コミュニティ施設等の図面トレースを行う。また全体の進捗に応じて設計課題として					
	別階の平面図や別部分の断面図等の図面を作成する。					
教科書	定番 建築製図入門 大脇賢次 著					
参考書	コンパクト建築設計資料集成（丸善）					
関連科目	建築設計製図Ⅰ					
成績評価 方法	授業における課題の提出は必須とし、提出された課題の評価にて行います。					
	また、課題の提出期限、出席状況を重視します。					
授業計画						
授業回・週	授業内容					
第1週	①鉄筋コンクリート設計・製図の考え方・説明 ②RC造事務所ビル配置図・1F平面図演習					
第2週	①RC造事務所ビル2F平面図演習					
第3週	①課題：RC造事務所ビル3階平面図					
第4週	①RC造事務所ビル立面図					
第5週	①RC造事務所ビル断面図					
第6週	①RC造事務所ビル矩計図1					
第7週	①RC造事務所ビル矩計図2					
第8週	①予備（事務所ビル矩計図3）					
第9週	①鉄骨造設計・製図の考え方・説明 ②S造コミュニティ施設配置図・1階平面図					
第10週	①S造コミュニティ施設2階平面図					
第11週	①S造コミュニティ施設立面図					
第12週	①S造コミュニティ施設断面図					
第13週	①課題：S造コミュニティ施設断面図2					
第14週	①S造コミュニティ施設部分矩計図1					
第15週	①S造コミュニティ施設部分矩計図2					
第16週	予備					

授業科目名	昼夜別	開講期間等		必修選択	単位	担当教員名
建築設計製図Ⅲ	夜間	2 年 前 期		必修	4	國武 聖
授業の方法	演習	担当教員実務内容	建設会社にて施工管理業務。一級建築士。			
授業目的 及び 到達目標	建築設計に必要なとされる製図技術および計画技術を修得することを授業目的とする。					
	建築設計製図Ⅰ・Ⅱを踏まえて、主に鉄骨造の製図方法を学んだ後、設計課題を通して					
	建築計画から基本設計までをまとめ上げることが到達目標とする。					
講義・演習 の内容	製図や計画方法のポイントを講義したうえで、製図課題に取り組む。					
	二級建築士設計製図においての作図可能時間約3時間内で描き上げる手法・精度を身に着ける。					
教科書	2025 2級建築士試験 設計製図テキスト（総合資格）					
参考書	コンパクト建築資料集成（丸善）					
関連科目	建築設計製図Ⅰ・Ⅱ					
	資格講座（建築士設計製図）					
成績評価 方法	製図時間 三時間以内に木造二階建て 配置図兼一階平面図、二階平面図、断面図					
	立面図、小屋伏せ図、部分詳細図を描く。（試験）					
授業計画						
授業回・週	授業内容					
第1週	課題①木造二階建て 配置図兼一階平面図、二階平面図、断面図、立面図 のトレース					
第2週	課題①木造二階建て 小屋伏図、部分詳細図の座学及びトレース					
第3週	課題②木造二階建て 解答例（平面、立面、断面）を参照し、小屋伏図、部分詳細図の作成					
第4週	課題③木造二階建て 解答例を参照し、エスキスに戻し、エスキスを元に作図の実施。					
第5週	課題③作図の続き及び提出時に添削を行い、正しい描き方及び精度の助言をし、修正作図					
第6週	課題④木造二階建て 解答例を参照し、エスキスに戻し、エスキスを元に作図の実施。					
第7週	課題④作図の続き及び提出時に添削を行い、正しい描き方及び精度の助言をし、修正作図					
第8週	課題⑤木造二階建て 解答例を参照し、エスキスに戻し、エスキスを元に作図の実施。					
第9週	課題⑤作図の続き及び提出時に添削を行い、正しい描き方及び精度の助言をし、修正作図					
第10週	課題⑥木造二階建て 解答例を参照し、エスキスに戻し、エスキスを元に作図の実施。					
第11週	課題⑥作図の続き及び提出時に添削を行い、正しい描き方及び精度の助言をし、修正作図					
第12週	模擬試験 木造二階建て 配置図兼一階平面図、二階平面図、断面図、立面図、小屋伏せ図、部分詳細図					
第13週	設計演習（コンペ）					
第14週	設計演習（コンペ）					
第15週	設計演習（コンペ）					
第16週	試験 木造二階建て 配置図兼一階平面図、二階平面図、断面図、立面図、小屋伏せ図、部分詳細図					

授業科目名		昼夜別	開講期間等		必修選択	単位	担当教員名
建築CAD演習Ⅰ		夜間	1 年 前 期		必修	2	伊藤 悦子
授業の方法	演習	担当教員実務内容		建築設計会社にて建築設計業務。一級建築士。			
授業目的 及び 到達目標	教科書課題の図形を作図しながら、CAD製図に必要な図学的知識とコンピューターの基本的な操作方法を習得するとともに建築図面への理解を深めることを目標とする。						
講義・演習 の内容	用語・操作方法を説明しながら、教科書の課題を実際にCADで作図していく。さらに、建築図面を部分的に作図することでCAD操作と建築図面への理解を深めていく。						
	使用ソフトウェアはJw_cad						
教科書	これで完璧!! Jw_cad基本作図ドリル（エクスナレッジ）						
参考書							
関連科目	建築CAD演習Ⅱ						
成績評価 方法	授業への取り組み態度、提出課題内容を総合的に評価。						
授業計画							
授業回・週	授業内容						
第1回	Jwcadとは、画面構成、マウス操作、線属性、レイヤの概念						
第2回	基本ドリル01、02、						
第3回	基本ドリル03、04						
第4回	基本ドリル05、06						
第5回	基本ドリル07、08						
第6回	基本ドリル09、10						
第7回	基本ドリル11、12、13						
第8回	平面図01、02						
第9回	平面図03、04、05						
第10回	平面図06、07						
第11回	立面図01、02						
第12回	木造平屋建て住宅 平面図						
第13回	木造平屋建て住宅 平面図						
第14回	木造平屋建て住宅 平面図、（印刷）						
第15回	木造平屋建て住宅 立面図・（断面図）						
第16回	木造平屋建て住宅 立面図・（断面図）、（印刷）						

授業科目名		昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築CAD演習Ⅱ		夜間	1 年 後 期	必修	4	大西敏恵
授業の方法	演習	担当教員実務内容				
授業目的 及び 到達目標	教科書課題の平面図・立面図・断面図を作図しながら、CAD製図に必要な知識と使用CAD					
	ソフトウェアの基本的な操作を習得することを目標とする。					
講義・演習 の内容	用語・操作方法を説明しながら、教科書の課題を実際にCADで作図していく。					
	使用ソフトウェアはAutoCAD（Autodesk社）					
教科書	AutoCADで学ぶ建築製図の基本（エクスナレッジ）					
参考書						
関連科目	建築CAD演習Ⅰ、資格講座（CAD）、設計演習Ⅰ・Ⅱ					
成績評価 方法	授業への取り組み態度、提出課題内容を総合的に評価。					
授業計画						
授業回・週	授業内容					
第1週	第1章：建築製図とは、第2章：AutoCADの基本					
第2週	第3章：製図の準備（テンプレート作成練習）					
第3週	第4章：平面図の作成					
第4週	//					
第5週	//					
第6週	//					
第7週	演習課題：平面図（検定過去問）					
第8週	//					
第9週	//					
第10週	//					
第11週	第5章：立面図の作成					
第12週	//					
第13週	演習課題：立面図（検定過去問）					
第14週	//					
第15週	第6章：断面図の作成					
第16週	補講					

授業科目名		昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
資格講座（CAD）		夜間	1 年 後 期	必修	2	大西敏恵
授業の方法	演習	担当教員実務内容				
授業目的 及び 到達目標	CAD製図に必要な知識とスキルを習得させ、2級CAD検定試験への合格を目標とする。					
	使用ソフトウェアはAutoCADとし、検定への合格を目標とする中でCAD操作スキルを					
	高めることを目的とする。					
講義・演習 の内容	2級建築CAD検定受験の過去の出題内容をCADで作図しながら、ポイントなどを解説する。					
教科書	建築CAD検定試験公式ガイドブック（エクスナレッジ）					
	建築CAD検定試験問題集（全国建築CAD連盟）					
参考書	AutoCADで学ぶ建築製図の基本（エクスナレッジ）					
関連科目	建築CAD演習Ⅱ					
成績評価 方法	授業への取り組み態度、提出課題内容を総合的に評価。					
授業計画						
授業回・週	授業内容					
第1週	2級建築CAD検定試験の概要説明／テンプレートファイル作成					
第2週	過去問題①-1					
第3週	過去問題①-2					
第4週	過去問題①-3					
第5週	過去問題①-4					
第6週	過去問題②-1					
第7週	過去問題②-2					
第8週	過去問題②-3					
第9週	過去問題②-4					
第10週	過去問題③-1					
第11週	過去問題③-2					
第12週	過去問題④-1					
第13週	過去問題④-2					
第14週	過去問題⑤-1					
第15週	過去問題⑤-2					
第16週	補講					

授業科目名		昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
資格講座（建築士設計製図）		夜間	2 年 後 期	必修	8	國武 聖
授業の方法	演習	担当教員実務内容	建設会社にて施工管理業務。一級建築士。			
授業目的 及び 到達目標	建築設計に必要とされる製図技術および計画技術を修得することを授業目的とする。					
	今までの講義を踏まえた状態で、 2 級建築士製図における必要な知識及び技能の習得を目指す。					
講義・演習 の内容	製図や計画方法のポイントを講義したうえで、製図課題に取り組む。					
	二級建築士設計製図においての作図可能時間約3時間内で描き上げる手法・精度を身に付ける					
教科書	2025 2級建築士試験 設計製図テキスト（総合資格）					
参考書	コンパクト建築資料集成（丸善）					
関連科目	建築設計製図Ⅰ・Ⅱ					
成績評価 方法	出席状況、課題提出による毎課題での評価					
授業計画						
授業回・週	授業内容					
第1週	H2 2の本試験課題のエスキス					
第2週	H2 2の本試験課題のエスキスの解説・修正					
第3週	H2 2の本試験課題の作図					
第4週	H2 2の本試験課題の作図					
第5週	H2 3の本試験課題のエスキス					
第6週	H2 3の本試験課題のエスキスの解説・修正					
第7週	H2 3の本試験課題の作図					
第8週	H2 3の本試験課題の作図					
第9週	H2 5の本試験課題のエスキス					
第10週	H2 5の本試験課題のエスキスの解説・修正					
第11週	H2 5の本試験課題の作図					
第12週	H2 5の本試験課題の作図					
第13週	H2 6の本試験課題のエスキス					
第14週	H2 6の本試験課題のエスキスの解説・修正					
第15週	H2 6の本試験課題の作図					
第16週	H2 6の本試験課題の作図					

授業科目名		昼夜別	開講期間等		必須選択	単位	担当教員名
建築計画Ⅰ		夜間	1 年 前 期		必修	4	徳田剛一
授業の方法	講義	担当教員実務内容		建築実施設計、基本設計、計画構想、都市計画、まちづくり			
授業目的 及び 到達目標	「独立住宅」，「集合住宅」について学習する。						
	「独立住宅」については，住生活空間の史的特性、近代化について整理した後、ゾーニング手法による						
	平面構成および各室・スペースの計画的要点について学び、実習を通じ住宅平面計画の基本的構成が						
	作成できるようになることを目標とする。「集合住宅」については、水準・指標値を基にした住戸						
講義・演習 の内容	ユニットの計画について学習し、住戸、共用部、配置計画についての基礎と近年動向を整理する。						
	テキストとともに，配布プリント，スライド等を用いて学習する。						
	また，計画の分析，2級建築士の過去問題、将来の自宅を自ら提案する演習、共同住宅のユニット						
教科書	プランの作成などの実習を行う。						
	建築計画・初学者の建築講座 （市ヶ谷出版）						
参考書							
	コンパクト建築資料集成（丸善）						
関連科目	建築設計製図Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、建築計画Ⅱ						
成績評価 方法	定期テストの結果に平常点（出席日数・提出物）を勘案						
授業計画							
授業回・週	授業内容						
第1週	ガイダンス・建築計画の構成と方法について						
第2週	独立住宅：日本の伝統的住まい・日本の住宅の近代化						
第3週	独立住宅：アメリカの住宅との比較検討・モダンリビングと公私のゾーニング						
第4週	独立住宅：公室の計画						
第5週	独立住宅：個室と寝室・私室の計画						
第6週	独立住宅：導線空間の計画・寸法計画・近年の住宅計画の事例						
第7週	独立住宅：計画演習 20年後の自宅を計画してみる						
第8週	独立住宅：計画演習 20年後の自宅を計画してみる						
第9週	独立住宅：計画演習 20年後の自宅を計画してみる						
第10週	集合住宅：共同住宅の住棟形式・アクセス形式						
第11週	集合住宅：住宅水準・nLDK・居住者の意向を反映する住戸計画						
第12週	集合住宅：ユニットプランの計画・ユニットプランの計画実習						
第13週	集合住宅：共同施設の計画・住宅計画の動向						
第14週	集合住宅：住宅地計画・居住と密度						
第15週	20年後の自宅計画実習の発表会・復習						
第16週	定期試験						

授業科目名		昼夜別	開講期間等		必須選択	単位	担当教員名
建築計画Ⅱ		夜間	1 年 後 期		必修	4	徳田剛一
授業の方法	講義	担当教員実務内容		建築実施設計、基本設計、計画構想、都市計画、まちづくり			
授業目的 及び 到達目標	建築計画Ⅰに引き続き、各種施設の計画について学習する。						
	まず、「事務所建築」については、経済性を踏まえた基準階計画を中心に、モジュールプラン、						
	省エネ、高層建築の都市性などについて学習する。続いて、運営に対応したゾーニングやブロック						
	プランなどの視点から不特定多数が利用する空間の計画についての基礎的知識を修得することを目標に、 各種公共的施設について学習する。						
講義・演習 の内容	テキストとともに、配布プリント、スライド等を用いて学習する。						
	また、計画の分析、2級建築士の過去問題、事務所ビルの基準階計画の作成などの実習を行う。						
教科書	建築計画・初学者の建築講座 （市ヶ谷出版）						
参考書	コンパクト建築資料集成（丸善）						
関連科目	建築設計製図Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、建築計画Ⅱ						
成績評価 方法	定期テストの結果に平常点（出席日数・提出物）を勘案						
授業計画							
授業回・週	授業内容						
第1週	事務所：事務所ビルの機能構成・空間構成・面積構成						
第2週	事務所：コアの概念・種類と特徴・コアの計画						
第3週	事務所：オフィスレイアウト・オフィスモジュール・執務空間の計画						
第4週	事務所：外装計画・事務所計画と環境への配慮						
第5週	事務所：基準階の計画演習						
第6週	図書館：サービスの種類と出納方式・全体計画						
第7週	図書館：諸室計画						
第8週	図書館：寸法計画・環境計画・開架書架部分柱割り計画演習						
第9週	展示施設：機能構成と全体計画・公開部分の計画						
第10週	展示施設：非公開部分の計画						
第11週	集会施設：空間構成・大空間と小空間の計画・各室計画・住民参加の計画						
第12週	劇場：ステージ・客席計画 全体計画 各室計画						
第13週	教育施設：教育システムの変革と運営方式・ブロックプランと教室等の配置関係						
第14週	教育施設：ユニットプラン・教室の計画 老人福祉施設：老人福祉施設の種類と機能						
第15週	老人福祉施設：全体計画・ユニットケアとユニットの計画・入所空間の計画						
第16週	定期試験						

授業科目名		昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築環境工学		夜間	1 年 前 期	必修	4	大西敏恵
授業の方法	講義	担当教員実務内容				
授業目的 及び 到達目標	「建築環境工学」は、我々が望ましい室内環境を形成するために必須分野であり、建築計画にも大きな影響を与え、生かされている分野である。					
	本講義では、建築士の学科試験を見据えながら、室内環境に関わる要素を総合的に学習することを目的とする。また、他分野（省エネルギーや建築計画）との関連についても適宜触れながら、「建築環境工学」の有効性を学べばと考えている。					
講義・演習 の内容	教科書を使用して、講義を行う。学習単元終了ごとに演習を行い、理解度を深める。					
教科書	「初学者の建築講座 建築環境工学（第三版）」（市ヶ谷出版社）					
参考書	なし					
関連科目	建築設備					
	建築計画Ⅰ・Ⅱ					
	資格講座（建築士計画）					
成績評価 方法	講義中の演習および期末試験、授業態度をもとに総合的に評価する。					
授業計画						
授業回・週	授業内容					
第1週	序章 建築環境工学の役割					
第2週	第1章 日照・日射環境					
第3週	第2章 光環境					
第4週	第3章 色彩環境					
第5週	第9章 音環境					
第6週	演習テスト1					
第7週	第4章 空気環境（1）					
第8週	第4章 空気環境（2）					
第9週	第5章 熱環境（1）					
第10週	第5章 熱環境（2）					
第11週	第6章 湿気環境					
第12週	第7章 温熱環境					
第13週	第8章 都市・地球環境					
第14週	建築環境工学のまとめ					
第15週	演習テスト2					
第16週	期末試験					

授業科目名		昼夜別	開講期間等		必修選択	単位	担当教員名
建築設備		夜間	2 年 前 期		必修	4	田中茉吏
授業の方法	講義	担当教員実務内容		建築設計会社にて建築設計業務。二級建築士。			
授業目的 及び 到達目標	建築設備の基本設計として、空気調和設備・給排水衛生設備・消火設備・ガス設備・電気設備等の						
	実施設計要領について解説する。						
	意匠設計・設備設計・構造設計との関係性を学ぶ。						
講義・演習 の内容	写真・実施図面等で説明する。						
	講義の進行に合わせて、小テストを行う。小テストは、建築士試験過去出題問題から編集した						
	ものである。教科書を中心に授業を進めていくので、予習・復習では教科書を熟読すること。						
教科書	初学者の建築講座 建築設備、第2版、大塚雅之著(市ヶ谷出版社)						
参考書	建築士試験問題と解説(日建学院)						
関連科目	建築環境工学						
	資格講座（建築士計画）						
成績評価 方法	期末試験(100%)						
	但し、出席回数が2/3以上の者のみ採点の対象とする。						
	100点満点中、60点以上を合格とし、60～69点を可、70～79点を良、80点以上を優とする。						
授業計画							
授業回・週	授業内容						
第1週	建築設備概論（１）、オリエンテーション(授業の進め方、他)、建築設備概論（２）、設備計画、省エネルギー指針、他						
第2週	オリエンテーション(給排水・衛生設備の概要)、給水設備（１）						
第3週	給水設備（２）、給水設備（３）、給湯設備（１）						
第4週	ガス設備（１）、排水・通気設備（１）						
第5週	排水・通気設備（２）、排水・通気設備（３）						
第6週	排水処理設備（１）、衛生器具設備（１）						
第7週	消火設備（１）、消火設備（２）						
第8週	全体のまとめ(重点事項の復習)、本試験（１）						
第9週	空気調和設備とは、空気調和と室内環境						
第10週	空気の状態を知る・空気線図（１）、空気の状態を知る・空気線図（２）						
第11週	空調負荷の考え方（１）、空調負荷の考え方（２）						
第12週	空気調和方式の種類・特徴と設備計画（１）、空気調和方式の種類・特徴と設備計画（２）						
第13週	空気調和方式の種類・特徴と設備計画（３）、熱源搬送設備と機器部材						
第14週	換気排煙設備（１）、換気排煙設備（２）						
第15週	電気設備（１）、電気設備（２）						
第16週	全体のまとめ(重点事項の復習)、本試験（２）						

授業科目名		昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築史		夜間	1 年 前 期	必修	2	堀 賀 貴
授業の方法	講義	担当教員実務内容				
授業目的 及び 到達目標	建築史を単なる歴史ではなく、人が造り出してきた空間ひとつひとつの積み重ねとして理解した					
	い。本講義では、さまざまな建築物や建築を構成する空間の特質・文化的あるいは社会的背景につ					
	いて概説する。過去の建築物がもつ魅力や素晴らしさに触れることによって、過去の建築物を参照					
	する力を習得することを目的としている。					
講義・演習 の内容	日本建築と西洋建築、近代建築をそれぞれ時代ごとの様式やムーブメント（流行）に分類すること					
	で共通する特質およびその意味を学ぶ。授業中は、プリント、映像、写真などを使用することで、 「視覚的に」建築を体験できることを大切にする。					
教科書	カラー版 建築の歴史（学芸出版社）					
参考書	日本建築学会編「日本建築史図集」「西洋建築史図集」「近代建築史図集」など					
関連科目						
成績評価 方法	期末試験の得点，出席などを総合的に評価する					
授業計画						
授業回・週	授業内容					
第1回	西洋建築史：古代エジプト建築，古代ギリシア建築					
第2回	西洋建築史：古代ローマ建築，世界の古代建築					
第3回	西洋建築史：初期キリスト教建築，ビザンチン建築とロマネスク建築					
第4回	西洋建築史：ゴシック建築					
第5回	西洋建築史：ルネサンス建築，バロック建築，新古典主義					
第6回	日本建築史：原始集落の住居，飛鳥，白鳳，天平，平安時代の寺院建築					
第7回	日本建築史：古代，奈良・平安時代の社寺					
第8回	日本建築史：古代の宮殿と都城，寝殿造，大仏様・禅宗様・折衷様，中世の神社					
第9回	日本建築史：北山文化と東山文化，中世の民家・書院造・茶室，数寄屋造					
第10回	日本建築史：近世の社寺・民家，学校や劇場					
第11回	近代建築史：産業革命から第一次世界大戦前のヨーロッパ					
第12回	近代建築史：第一世界大戦後のアメリカ，ヨーロッパとモダニズム					
第13回	近代建築史：明治維新と日本の近代建築					
第14回	近代建築史：関東大震災後の日本の建築					
第15回	近代建築史：第二次大戦後の世界の建築					
第16回	定期試験					

授業科目名		昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
資格講座（建築士計画）		夜間	2 年 後 期	必修	2	伊藤 悦子
授業の方法	講義	担当教員実務内容	建築設計会社にて建築設計業務。一級建築士。			
授業目的 及び 到達目標	2級建築士試験における計画及の出題傾向を把握し、問題文の正・誤が判断できる知識を身につける。					
	繰り返し問題を解くことにより、知識の定着を図る。					
講義・演習 の内容	テキストに沿って解説及び問題演習を行う。					
	問題演習は、10年分の過去問から出題頻度の高いものをピックアップし、					
	重要なキーワードなどの解説を行う。					
教科書	ラクラク突破の2級建築士スピード学習帳 2025（株式会社エクスナレッジ）					
参考書	初学者の建築講座 建築計画（第三版）（市ヶ谷出版社）					
	2級建築士学科受験テキスト（計画）（日建学院）					
関連科目						
成績評価 方法	問題演習、中間テスト、出席率を総合的に評価する。					
授業計画						
授業回	授業内容					
第1回	001・002住宅・集合住宅					
第2回	004・005公共建築					
第3回	006・007商業建築、008建築計画					
第4回	009・010各部計画					
第5回	011日本建築史、003住宅事例、					
第6回	012西洋・東洋建築史					
第7回	013換気、014温冷感・熱・結露、					
第8回	015日照・日射・採光					
第9回	016光・色彩、					
第10回	017音の性質・透過損失・音響計画					
第11回	018建築設備用語、019空調設備					
第12回	020・021給排水衛生設備					
第13回	022電気・照明設備、023防災設備					
第14回	024省エネルギー、環境配慮					
第15回	中間テスト対策 全体まとめ					
第16回	中間テスト（計画テスト）					

授業科目名		昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築構造力学Ⅰ		夜間	1 年 後 期	必修	4	姜 優子
授業の方法	講義	担当教員実務内容		建築設計会社にて建築設計業務。		
授業目的 及び 到達目標	建物には地震・風など様々な力が加わる。その様な力に対して支える方法の基礎を習得するために、力の表現方法・骨組みのモデル化・釣合による解法を学習することで、構造に関する基本的な感覚を身に付けることを目的とする。					
講義・演習 の内容	各項目ごとに講義形式で授業を行う。特に重要な点については、まとめのプリントや演習問題を出題し、学生の理解度を確認しながら授業を進める。					
教科書	初学者の建築講座 建築構造力学（市ヶ谷出版社）					
参考書	初めて学ぶ 建築構造力学（市ヶ谷出版社）					
関連科目	建築構造力学Ⅱ					
成績評価 方法	中間試験および定期試験によって成績を評価する。					
授業計画						
授業回・週	授業内容					
第1週	建築における構造力学の役割、構造物に作用する力、力の表現・符号・モーメント					
第2週	構造物のモデル化、支点のモデル化、荷重の種類、安定と不安定					
第3週	力の合成（分布荷重・2力以上の力の合成・平行な力の合成）、力の分解、力のつり合い					
第4週	反力の計算：片持ち梁					
第5週	反力の計算：単純梁（集中荷重が作用する場合）					
第6週	反力の計算：静定ラーメン、モーメント荷重が作用する静定構造物					
第7週	中間試験：反力までの理解度確認試験					
第8週	応力（断面力）の算定法					
第9週	梁の応力（断面力）の算定：片持ち梁、単純梁					
第10週	梁の応力図（N図・Q図・M図）					
第11週	静定ラーメン・3ヒンジラーメンの応力（断面力）の算定、					
第12週	静定ラーメンの応力図					
第13週	静定トラス構造の特徴、静定トラス構造の軸力算定法（節点つりあい法）					
第14週	静定トラス構造の軸力算定法（切断法）					
第15週	応力まとめ					
第16週	期末試験					

授業科目名		昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築構造力学Ⅱ		夜間	2 年 前 期	必修	4	姜 優子
授業の方法	講義	担当教員実務内容		建築設計会社にて建築設計業務。		
授業目的 及び 到達目標	建築構造力学Ⅱにおいては、以下の項目を中心に解説を行い、骨組あるいは部材の解法を修得する。 断面の応力度と性質：部材内に生じる応力の意味を理解し、断面諸量として表現される各種性質を理解する。 長柱の座屈：座屈の基本事項を理解し、簡単な部材の座屈耐力を求められるようになる。 梁のたわみ：力と変形の関係を理解し、梁のたわみが求められるようになる。 不静定構造物の応力：不静定構造物の応力を求められるようになる。					
講義・演習 の内容	各項目ごとに講義形式で授業を行う。特に重要な点については、まとめのプリントや演習問題を出題し、学生の理解度を確認しながら授業を進める。					
教科書	初学者の建築講座 建築構造力学（市ヶ谷出版社）					
参考書	初めて学ぶ 建築構造力学（市ヶ谷出版社）					
関連科目	建築構造力学Ⅰ					
成績評価 方法	中間試験および定期試験によって成績を評価する。					
授業計画						
授業回・週	授業内容					
第1週	断面の性質（断面1次モーメント，断面2次モーメント）					
第2週	断面の性質（断面2次モーメント，断面係数）					
第3週	垂直応力度（軸方向応力度，曲げ応力度）					
第4週	組合せ応力度，せん断応力度					
第5週	材料の剛さ（ヤング係数），部材の剛性					
第6週	座屈とその基本公式					
第7週	中間試験：応力度までの理解度確認試験					
第8週	梁のたわみの算定1（モールの定理）					
第9週	梁のたわみの算定2（弾性曲線式）					
第10週	たわみ角法の基本式					
第11週	たわみ角法・節点方程式					
第12週	たわみ角法・層方程式					
第13週	固定モーメント法（1）					
第14週	固定モーメント法（2）					
第15週	総合演習					
第16週	期末試験					

授業科目名		昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築構造Ⅰ		夜間	1 年 前 期	必修	4	山口 謙太郎
授業の方法	講義	担当教員実務内容				
授業目的 及び 到達目標	建築構造の役割、建築物の構成要素、建築物に作用する外力、構造設計法の概要を理解する。 木造建築物（主に住宅）の構造について、その構成を理解し、構造部材各部位の断面寸法、 継手・仕口を理解すると共に、水平荷重に対する安全性の確認方法を習得する。 鉄筋およびコンクリートの各材料の力学的性質を学習するとともに、鉄筋コンクリート（RC） 構造の概要を理解することによって、RC構造の建築空間を安全に設計するための基礎知識を 得る。					
講義・演習 の内容	下記授業計画に沿って講義を行う。講義はプロジェクトを用いた図示と板書を行いながら進 める。					
教科書	初学者の建築講座 建築構造（新版） （市ヶ谷出版社）					
参考書	必要に応じてプリントを配布する。					
関連科目	建築構造力学Ⅰ・Ⅱ 建築構造Ⅱ					
成績評価 方法	期末試験及び出欠状況を加味し、客観的かつ総合的に評価する。					
授業計画						
授業回・週	授業内容					
第1週	建築物の構成要素、建築物の安定と不安定					
第2週	建築物に作用する外力とその伝達メカニズム					
第3週	構造設計法の概要					
第4週	木質構造の概要					
第5週	木材と木質系材料					
第6週	木材の接合					
第7週	軸組					
第8週	壁倍率と壁量					
第9週	小屋組、床組					
第10週	枠組壁工法、構造用大断面集成材を用いた構造					
第11週	木質構造の各部構造（１）：勾配屋根、床、階段					
第12週	木質構造の各部構造（２）：壁、天井、開口部					
第13週	鉄筋コンクリート構造とは					
第14週	RC構造の材料					
第15週	問題演習					
第16週	定期試験					

授業科目名		昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築構造Ⅱ		夜間	1 年 後 期	必修	4	山口 謙太郎
授業の方法	講義	担当教員実務内容				
授業目的 及び 到達目標	鉄筋とコンクリートで構成されたRC構造部材の抵抗機構・破壊機構を学習することによって、鉄筋コンクリート構造の建築空間を安全に設計するための基礎知識を得る。 また、①鉄骨構造の特徴、②鉄骨構造建物の構造安全性を確保するための基本的な考え方 ③鉄骨構造部材の設計法、④各種接合部の設計と施工、⑤土や地盤の性質、 ⑥基礎の種類と設計上の留意点、⑦地盤改良、土圧、擁壁、について理解を深める。					
講義・演習 の内容	下記授業計画に沿って講義を行う。講義はプロジェクトを用いた図示と板書を行いながら進める。					
教科書	初学者の建築講座 建築構造（新版） （市ヶ谷出版社）					
参考書	必要に応じてプリントを配布する。					
関連科目	建築構造力学Ⅰ・Ⅱ 建築構造Ⅰ					
成績評価 方法	期末試験及び出欠状況を加味し、客観的かつ総合的に評価する。					
授業計画						
授業回・週	授業内容					
第1週	RC構造の梁・柱部材、RC構造におけるひび割れ					
第2週	RC構造のスラブ、耐震壁					
第3週	RC構造の断面算定					
第4週	その他のコンクリート系構造					
第5週	RC構造の各部構造					
第6週	鉄骨構造の概要					
第7週	鋼材の種類と性質、各部材の設計					
第8週	鉄骨構造の接合					
第9週	柱脚、トラス構造、そのほかの鉄骨構造					
第10週	耐火被覆および錆止め、鉄骨構造の各部構造					
第11週	基礎の種類、地層と地盤、土の性質					
第12週	根切り・地業、直接基礎					
第13週	杭基礎					
第14週	地盤改良、土圧および擁壁					
第15週	問題演習					
第16週	定期試験					

授業科目名		昼夜別	開講期間等		必須選択	単位	担当教員名
建築構法		夜間	1 年 前 期		必修	2	小山田 英弘
授業の方法	講義	担当教員実務内容		建設会社にて管理業務。一級建築士。技術士（建設部門）。			
授業目的 及び 到達目標	本講義の目的は建築物がどのようにして構成されるかを具体的に理解することにある。建築物は人々にとって快適な空間であると同時に、その機能が長期間にわたって維持されなければならないが建築物にはこれを損なおうとする多くの要因が作用する。建築物に損傷を与える諸要因に抗して、造形的な面を含め、安全で耐久的であるために、如何なる構法を採用すべきかについて考え、必要な知識を習得する。建築の基礎構造を初めとして、各種構造別にその主要事項、後章では仕上げ、造作、建具などについて学習する。建築に対して考える力を養い、実務者として、各種構造を本格的に学習するために必要な基礎知識を習得することを到達目標とする。						
講義・演習 の内容	下記の講義内容について講述するが、ビデオ・スライド等を用い、理解を深める。併せて、用語・用法に関する資料を課題として作成することで、学習内容の定着を図る。						
教科書	「3D図解による建築構法」（市ヶ谷出版社）						
参考書	なし						
関連科目	建築材料，建築施工，鉄筋コンクリート構造，鉄骨構造，						
成績評価 方法	受講態度，作成課題，定期試験により総合的に評価する。						
授業計画							
授業回・週	授業内容						
第1週	建築物の構成構造形式を決定する要素						
第2週	建築物の機能・性能を決定する要素						
第3週	建築物への荷重・外力						
第4週	部品とモデューラーコーディネーション						
第5週	構造形式（ラーメン構造，壁式構造など）の特徴						
第6週	鉄筋コンクリート造，プレストレストコンクリート造						
第7週	鉄骨造，鉄骨鉄筋コンクリート造						
第8週	組積造						
第9週	木造						
第10週	木造部材の接合法						
第11週	地業・基礎，屋根						
第12週	壁の種類と機能						
第13週	仕上げ材，仕上げ方法						
第14週	開口部・建具，床，階段，天井						
第15週	造作と納まり						
第16週	定期試験						

授業科目名		昼夜別	開講期間等		必須選択	単位	担当教員名
建築材料		夜間	1 年 前 期		必修	2	小山田 英弘
授業の方法	講義	担当教員実務内容		建設会社にて管理業務。一級建築士。技術士（建設部門）。			
授業目的 及び 到達目標	建築物には様々な材料が用いられており，設計時には材料の選定，施工時には工法の検討，完成後には維持・保全に関する知識が必要である。講義および演習課題により，建築で用いられる材料の基本的な物理的・化学的性質，コスト，耐久性，用法等に関する知識を習得する。 実務で必要な基礎知識および一級建築士試験レベルの知識の習得を到達目標とする。						
講義・演習 の内容	各種材料の性質を理解するために，教科書に準じたサブノートの作成を中心とした講義を行う。また，視覚的・体験的に学ぶことで理解を深めるべく，適宜，ビデオやスライドを用いる。 毎回，教員が用意した演習問題を解き，解答・解説により，講義内容の定着を図る。						
教科書	建築材料（市ヶ谷出版社）						
参考書	建築材料用教材（日本建築学会） 建築材料（朝倉書店）						
関連科目	建築構法，建築施工，鉄筋コンクリート構造，鉄骨構造						
成績評価 方法	受講態度（出席率含む），中間試験，定期試験による。						
授業計画							
授業回・週	授業内容						
第1週	ガイダンス：各種材料の使われ方（実例），用語（性質に関する用語）						
第2週	木材1：木材の種類，基本的性質，用途						
第3週	木材2：木材の耐久性，維持・保全，木材製品の性質および用途						
第4週	石材：石材の種類，性質，用途						
第5週	ガラス：ガラスの種類，性質，用途						
第6週	金属1：鋼材の製造過程，性質，用途，防食						
第7週	金属2：非鉄金属の種類，性質，用途						
第8週	中間試験						
第9週	セメント・コンクリート用骨材：セメントの種類，骨材に要求される性能						
第10週	コンクリート1：コンクリートの用途，製造方法，性質，品質管理						
第11週	コンクリート2：コンクリートの耐久性，維持・保全						
第12週	高分子基礎，塗料，接着剤：各種材料の種類，性質，用途						
第13週	防水材料，左官材料：各種材料の種類，性質，用途						
第14週	タイル：製法，種類，性質，用途						
第15週	畳，内装材料，その他の建築材料：種類，性質，用途						
第16週	定期試験						

授業科目名		昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
資格講座（建築士構造）		夜間	2 年 後 期	必修	2	島田 勤
授業の方法	講義	担当教員実務内容				
授業目的 及び 到達目標	2級建築施工管理技術検定試験学科試験及び二級建築士学科試験（構造）に合格することを授業の目的とし、出題内容の知識を習得し、合格できる学力の習得を到達目標とする。					
講義・演習 の内容	試験問題の理解度を座学で高めるとともに、過去問題を繰り返し解かせる。					
教科書	ラクラク突破の2級建築士スピード学習帳2025（エクスナレッジ編）					
参考書	2級建築士過去問題集					
関連科目	資格講座（建築士施工）					
	建築構造力学Ⅰ・Ⅱ					
	建築構造Ⅰ・Ⅱ					
成績評価 方法	期末試験、中間テスト（確認テスト）、出席状況に基づき、総合的に評価する。					
授業計画						
授業回・週	授業内容					
第1週	単純梁（静定梁）の応力					
第2週	静定トラスの応力					
第3週	静定ラーメンの応力					
第4週	断面の性質					
第5週	応力度と許容応力度					
第6週	座屈・変形					
第7週	中間テスト					
第8週	荷重・外力～地盤基礎構造					
第9週	鉄筋コンクリート構造					
第10週	壁式鉄筋コンクリート構造・補強コンクリートブロック構造					
第11週	鉄骨構造					
第12週	木構造①					
第13週	木構造②					
第14週	構造設計・耐震設計					
第15週	建築材料					
第16週	期末試験					

授業科目名		昼夜別	開講期間等		必修選択	単位	担当教員名
建築施工Ⅰ		夜間	2 年 前 期		必修	4	久保井 将太
授業の方法	講義	担当教員実務内容		設計会社にて建築設計実務。一級建築士。			
授業目的 及び 到達目標	建築施工の用語及び工法、手順等を学ぶ。						
	鉄骨造と鉄筋コンクリート造の相違点を学ぶ。						
	仕上工事の種類とその特徴を学ぶ。						
	現場の大切さを知る。						
講義・演習 の内容	写真・実施図面等で説明する。						
	講義の進行に合わせて、小テストを行う。小テストは、建築士試験過去出題問題から編集した						
	ものである。教科書を中心に授業を進めていくので、予習・復習では教科書を熟読すること。						
教科書	初学者の建築講座 建築施工、第4版、大塚雅之著(市ヶ谷出版社)						
参考書	施工がわかるイラスト建築生産入門、一般社団法人日本建設業連合会編(彰国社)						
関連科目	建築構法、建築法規Ⅰ・Ⅱ						
	鉄筋コンクリート構造						
	建築材料						
成績評価 方法	小テスト・中間試験(30%)、期末試験(70%)						
	但し、出席回数が2/3以上の者のみ採点の対象とする。						
	100点満点中、60点以上を合格とし、60～69点を可、70～79点を良、80点以上を優とする。						
授業計画							
授業回・週	授業内容						
第1週	第1章 建築生産（設計と施工）						
第2週	第2章 施工者を選定し、工事請負契約をむすぶ						
第3週	第3章 工事に着手する（施工計画、品質・原価管理）						
第4週	第3章 工事に着手する（工程計画・工程管理）						
第5週	第3章 工事に着手する（安全衛生管理、環境管理、地盤調査）						
第6週	第3章 工事に着手する（材料管理・建設機械）						
第7週	第4章 仮設・準備工事						
第8週	中間試験						
第9週	第5章 土工事、地業・基礎工事						
第10週	第5章 土工事、地業・基礎工事						
第11週	第6章 鉄筋コンクリート工事（鉄筋工事）						
第12週	第6章 鉄筋コンクリート工事（鉄筋工事）						
第13週	第6章 鉄筋コンクリート工事（型枠工事）						
第14週	第6章 鉄筋コンクリート工事（コンクリート工事）						
第15週	第6章 鉄筋コンクリート工事（コンクリート工事）						
第16週	定期試験						

授業科目名		昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築施工Ⅱ		夜間	2 年 後 期	必修	4	久保井 将太
授業の方法	講義	担当教員実務内容		設計会社にて建築設計実務。一級建築士。		
授業目的 及び 到達目標	建築施工の用語及び工法、手順等を学ぶ。					
	鉄骨造と鉄筋コンクリート造の相違点を学ぶ。					
	仕上工事の種類とその特徴を学ぶ。					
	現場の大切さを知る。					
講義・演習 の内容	写真・実施図面等で説明する。					
	講義の進行に合わせて、小テストを行う。小テストは、建築士試験過去出題問題から編集した					
	ものである。教科書を中心に授業を進めていくので、予習・復習では教科書を熟読すること。					
教科書	初学者の建築講座 建築施工、第4版、大塚雅之著(市ヶ谷出版社)					
参考書	施工がわかるイラスト建築生産入門、一般社団法人日本建設業連合会編(彰国社)					
関連科目	建築構法、建築法規Ⅰ・Ⅱ					
	鉄筋コンクリート構造					
	建築材料					
成績評価 方法	小テスト・中間試験(30%)、期末試験(70%)					
	但し、出席回数が2/3以上の者のみ採点の対象とする。					
	100点満点中、60点以上を合格とし、60～69点を可、70～79点を良、80点以上を優とする。					
授業計画						
授業回・週	授業内容					
第1週	第7章 鉄骨工事（工場製作）					
第2週	第7章 鉄骨工事（工場製作）					
第3週	第7章 鉄骨工事（工事現場施工）					
第4週	第8章 コンクリートブロック工事、屋根工事					
第5週	第8章 防水工事					
第6週	第9章 仕上工事（左官工事、タイル工事）					
第7週	第9章 仕上工事（石工事、建具・ガラス工事）					
第8週	中間試験					
第9週	第9章 仕上工事（金属工事・内装工事）					
第10週	第9章 仕上工事（塗装工事、ユニット工事、断熱工事、外壁工事）					
第11週	第9章 仕上工事（木工事）					
第12週	第9章 仕上工事（木工事）					
第13週	第10章 設備工事					
第14週	第11章 完成、引渡					
第15週	まとめ					
第16週	定期試験					

授業科目名		昼夜別	開講期間等		必修選択	単位	担当教員名
建築測量演習		夜間	1 年 前 期		必修	2	金崎大地
授業の方法	演習	担当教員実務内容		測量会社にて測量業務。測量士。			
授業目的 及び 到達目標	建築物を施工する上で、様内な測罫の知識が必要となる。特に距離・角度・水準などの測量は重要な項目である。又、新しいドローンや3D計測、GPS測量などの新しい技術にも触れることで測量の中でも特に建築現場における技術を器械・器具の取り扱い、建築施工の工種別での内容をふまえた講義や実践的な屋外での実地作業を行い建築に必要な測量（里出し）の理解を深める。						
講義・演習 の内容	各測量の概要・測量方法を講義形式または実演で行い、測量器械の取扱いや据付、測量結果の整理や誤差の補正までを実演を兼ねて行う。						
教科書	建築里出し（オーム社）						
参考書	なし（適宜プリント配布）						
関連科目	建築施工Ⅰ・Ⅱ						
成績評価 方法	出席・実習態度、レポートにより総合的に評価する。						
授業計画							
授業回・週	授業内容						
第1回	①測罫について（器械の種類、取り扱い方）						
第2回	②水準測量（レベルの据え付け方）						
第3回	①水準測量（スタッフの読み取り、地盤高の計算演習）						
第4回	②水準測量（観測手簿を使用した地盤高の計算演習）						
第5回	①TS実習（TSの据え付け方）						
第6回	②TS実習（TSの据え付け方、距離と角度の計測）						
第7回	①TS実習（距離と角度を用いた位置出し）						
第8回	②TS実習（座標を用いた位置出し）						
第9回	①②TS実習（チョークラインでの墨出し）：校内						
第10回	角測量の実習（単測法）、データ整理（角測量）						
第11回	①水準測量復習（レベルの据付・観測手簿を使用した地盤高の計算演習）						
第12回	②TS復習（TSの据え付け、距離と角度の計測）						
第13回	①テスト（筆記テスト40分レベル実技テスト）						
第14回	②テスト（筆記テスト40分レベル実技テスト）						
第15回	①テスト（TS実技テスト）						
第16回	②テスト（TS実技テスト）						

授業科目名		昼夜別	開講期間等		必須選択	単位	担当教員名
品質管理		夜間	2 年 前 期		必修	2	小山田 英弘
授業の方法	講義	担当教員実務内容		建設会社にて管理業務。一級建築士。技術士（建設部門）。			
授業目的 及び 到達目標	建築技術者には、法律等で定められた基準従って、発注者の要求を満たす建築物を設計・施工することが求められる。そのために建設現場では、図面の正確な理解、製品（材料）の品質管理および各基準に則った施工管理が不可欠である。 本講義では、品質管理の一般的知識、材料管理から現場での管理まで含めた建築物の品質を確保するための要点について講述する。						
講義・演習 の内容	品質および施工基準に関する基本的な知識・手法を理解し、統計的品質管理を行えるようになることを目標とする。教員が用意した演習問題を解き、解答・解説を行い、ビデオ教材等を交えて、講義内容の定着を図る。						
教科書	なし（配付資料）						
参考書	「2級建築士テキスト」，「2級建築施工管理技士学科試験テキスト」						
関連科目	建築材料，建築施工						
成績評価 方法	受講態度（出席率含む），中間試験，定期試験による。						
授業計画							
授業回・週	授業内容						
第1回	品質管理の基本理念						
第2回	品確法の概要，建築に関連する国内外の規格						
第3回	QC七つ道具						
第4回	データの取り方・まとめ方1						
第5回	データの取り方・まとめ方2						
第6回	品質マネジメントシステム，環境マネジメントシステムの概要						
第7回	各材料の現場管理						
第8回	材料製造時・現場受入れ時の管理						
第9回	施工時の品質管理技術の要点						
第10回	工程管理と品質管理 1						
第11回	工程管理と品質管理 2（演習）						
第12回	主要工事における品質管理の要点 1：鉄筋工事						
第13回	主要工事における品質管理の要点 2：型枠工事						
第14回	主要工事における品質管理の要点 3：コンクリート工事						
第15回	まとめ						
第16回	定期試験						

授 業 科 目 名		昼夜別	開講期間等	必修選択	単 位	担当教員名
資格講座（積算士補）		夜 間	2 年 後 期	必 須	4	青柳 正尚
授業の方法	講義	担当教員実務内容		日本建築積算協会講師。一級建築士・建築積算士。		
授業目的 及 び 到達目標	建築積算の全般の体系を理解させることに重点を置き、建築物を構成する部材の数量算出法、					
	鉄筋コンクリート造の積算技法、仕様書の見方などの基礎的な知識を習得することを目的とする。					
	建築積算士補試験の合格を目指す。					
講義・演習 の 内 容	積算の意義（役割と定義）。					
	積算上の注意点及び建築数量積算基準の修得。					
	建築数量積算基準による、土工・躯体・仕上・鉄骨の演習					
教 科 書	「建築積算」（公社 日本建築積算協会）					
	講義用テキスト					
参 考 書	建築数量積算基準・同解説〔令和7年版〕（財法 建築コスト管理システム研究所）					
	建築積算「別冊」（公社 日本建築積算協会）、公共建築工事標準仕様書（一社 公共建築協会）					
関連科目						
成績評価 方 法	建築積算士補試験、学期末試験の成績と出席状況にて評価を行う。					
授 業 計 画						
授業回・週	授 業 内 容					
第1週	基本事項 定義・意義・役割・活用方法・生産プロセス・業務の内容					
第2週	基本事項 設計図書と工事費の構成・内訳明細書とその区分 建築積算数量基準					
第3週	数量の計測・計算 土工・地業					
第4週	数量の計測・計算 躯体（コンクリート・型枠・鉄					
第5週	数量の計測・計算 躯体（コンクリート・型枠・鉄筋）					
第6週	数量の計測・計算 躯体（コンクリート・型枠・鉄筋）					
第7週	数量の計測・計算 躯体（コンクリート・型枠・鉄筋）					
第8週	数量の計測・計算 仕上（内部・開口・間仕切）					
第9週	数量の計測・計算 仕上（内部仕上）			数量の計測・計算 仕上（仮設・設備・応用）		
第10週	テキスト全体の復習			建築積算士補試験		
第11週	数量の計測・計算 仕上（外部仕上・鉄骨知識）					
第12週	数量の計測・計算 躯体（鉄骨）					
第13週	数量の計測・計算実技 土工・地業、躯体（コンクリート・型枠・鉄筋）					
第14週	数量の計測・計算実技 躯体演習					
第15週	数量の計測・計算実技 仕上（外部・内部・開口・集計・内訳）					
第16週	学期末テスト					

授業科目名		昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
資格講座（施工管理）		夜間	2 年 前 期	必修	6	島田 勤
授業の方法	講義	担当教員実務内容				
授業目的 及び 到達目標	2級建築施工管理技術検定試験学科試験受験の合格することを授業の目的とし、出題内容の知識を習得し、合格できる学力の習得を到達目標とする。					
講義・演習 の内容	試験問題の理解度を座学で高めるとともに、過去問題を繰り返し解かせる。					
教科書	2025年度版2級建築施工管理技士学科試験テキスト（総合資格学院編）					
参考書	（副教材）2級建築施工管理技術検定試験 1次試験対策用レジュメ 2級建築施工管理技士過去問題集					
関連科目	資格講座（建築士） 安全衛生管理 建築施工計画					
成績評価 方法	期末試験、中間テスト（確認テスト）、出席状況に基づき、総合的に評価する。					
授業計画						
授業回・週	授業内容					
第1回	環境工学					
第2回	構造力学①（応力計算）					
第3回	構造力学②（静定構造物の応力図等）					
第4回	一般構造①（構造設計・鉄骨構造）					
第5回	一般構造②（鉄筋コンクリート構造・木構造）					
第6回	一般構造③（地盤基礎構造）、建築材料					
第7回	建築設備、舗装、測量					
第8回	建築基準法、建設業法					
第9回	労働基準法、労働安全衛生法、間接関連法令					
第10回	過去問題解説④					
第11回	中間テスト					
第12回	躯体工事②（鉄筋工事～型枠工事）					
第13回	躯体工事③（コンクリート工事～解体工事）					
第14回	仕上工事①（防水工事～金属工事）					
第15回	仕上工事②（軽量鉄骨工事～建具ガラス工事）					
第16回	仕上工事③（塗装工事～内装工事）					
第17回	仕上工事④（内装工事～改修工事）					
第18回	施工管理①（施工計画～工程管理）					
第19回	施工管理②（品質管理～安全衛生管理）					
第20回	過去問題解説①					
第21回	過去問題解説②					
第22回	過去問題解説③					
第23回	期末テスト					

授業科目名		昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
資格講座（建築士施工）		夜間	2 年 後 期	必修	2	島田 勤
授業の方法	講義	担当教員実務内容				
授業目的 及び 到達目標	2級建築施工管理技術検定試験学科試験及び二級建築士学科試験（施工）に合格することを授業の目的とし、出題内容の知識を習得し、合格できる学力の習得を到達目標とする。					
講義・演習 の内容	試験問題の理解度を座学で高めるとともに、過去問題を繰り返し解かせる。					
教科書	ラクラク突破の2級建築士スピード学習帳2025（エクスナレッジ編）					
参考書	2級建築士過去問題集					
関連科目	資格講座（建築士構造）					
	安全管理、品質管理					
	建築施工Ⅰ・Ⅱ					
成績評価 方法	期末試験、中間テスト（確認テスト）、出席状況に基づき、総合的に評価する。					
授業計画						
授業回・週	授業内容					
第1週	工事請負契約					
第2週	施工計画①					
第3週	施工計画②					
第4週	地盤調査・測量					
第5週	仮設計画・土工事・基礎地業工事					
第6週	鉄筋コンクリート工事					
第7週	鉄骨工事					
第8週	木工事					
第9週	中間テスト					
第10週	防水工事，左官工事					
第11週	タイル・張り石工事，建具・ガラス工事					
第12週	内装・断熱工事					
第13週	塗装工事，設備工事					
第14週	各種工事・改修工事					
第15週	用語・積算					
第16週	期末試験					

授業科目名		昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築法規Ⅰ		夜間	1 年 後 期	必修	4	田中 茉吏
授業の方法	講義	担当教員実務内容	建築設計会社にて建築設計業務。二級建築士。			
授業目的 及び 到達目標	建築関係法規に関する基礎的な知識を習得させ、建築物の設計、施工、管理などに活用する能力と態度を育てる。					
講義・演習 の内容	下記の授業計画に基づき、教科書を中心に講義を行い、ミニテスト等で理解度を確認する。					
教科書	初学者の建築講座 建築法規（市ヶ谷出版社）					
	建築基準法関係法令集（建築資料研究社編）					
参考書						
関連科目	建築法規Ⅱ					
成績評価 方法	出席状況、受講態度、定期試験により総合的に評価する。					
授業計画						
授業回・週	授業内容					
第1週	建築法規を学ぶにあたって、建築基準法の概要					
第2週	基本的な用語、用語の定義					
第3週	面積・高さの算定Ⅰ					
第4週	面積・高さの算定Ⅱ					
第5週	各種手続き					
第6週	構造強度の規定					
第7週	各種構造（木造、RC造）					
第8週	各種構造（S造、CB造）					
第9週	防火に関わる用語					
第10週	防火に関わる規制					
第11週	防火区画等に係る規定					
第12週	避難施設等に係る規定Ⅰ					
第13週	避難施設等に係る規定Ⅱ					
第14週	内装制限					
第15週	採光					
第16週	学期末試験					

授業科目名		昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
建築法規Ⅱ		夜間	2 年 前 期	必修	4	田中 茉吏
授業の方法	講義	担当教員実務内容	建築設計会社にて建築設計業務。二級建築士。			
授業目的 及び 到達目標	建築関係法規に関する基礎的な知識を習得させ、建築物の設計、施工、管理などに活用する能力と態度を育てる。					
講義・演習 の内容	下記の授業計画に基づき、教科書を中心に講義を行い、ミニテスト等で理解度を確認する。					
教科書	初学者の建築講座 建築法規（市ヶ谷出版社）					
	建築基準法関係法令集（建築資料研究社編）					
参考書						
関連科目	建築法規Ⅰ					
成績評価 方法	出席状況、受講態度、定期試験により総合的に評価する。					
授業計画						
授業回・週	授業内容					
第1週	換気・石綿・シックハウス対策					
第2週	階段・傾斜路、その他の一般構造の規定					
第3週	道路に関する規定					
第4週	用途地域					
第5週	容積率					
第6週	建ぺい率					
第7週	高さ制限Ⅰ					
第8週	高さ制限Ⅱ					
第9週	日影規制、防火地域・準防火地域Ⅰ					
第10週	防火地域・準防火地域Ⅱ、その他規定					
第11週	建築土法					
第12週	都市計画法					
第13週	品確法					
第14週	建設業法、耐震改修法、バリアフリー法					
第15週	消防法、その他関連法規					
第16週	学期末試験					

授業科目名		昼夜別	開講期間等	必修選択	単位	担当教員名
資格講座（建築士法規）		夜間	2 年 後 期	必修	2	伊藤 悦子
授業の方法	講義	担当教員実務内容	建築設計会社にて建築設計業務。一級建築士。			
授業目的 及び 到達目標	2級建築士試験における法規の出題傾向を把握し、問題文の正・誤が判断できる知識を					
	身につけるとともに、法令集の該当箇所が素早く引けるようにする。					
	繰り返し問題を解くことにより、知識の定着を図る。					
講義・演習 の内容	テキストに沿って解説及び問題演習を行う。					
	問題演習は、10年分の過去問から出題頻度の高いものをピックアップし、					
	重要なキーワードなどの解説を行う。					
教科書	ラクラク突破の2級建築士スピード学習帳 2025（株式会社エクスナレッジ）					
参考書	初学者の建築講座 建築法規（第五版）（市ヶ谷出版社）					
	2級建築士学科受験テキスト（法規）（日建学院）					
関連科目						
成績評価 方法	問題演習、期末試験、出席率を総合的に評価する。					
授業計画						
授業回	授業内容					
第1回	建築法規出題内容					
第2回	建築法規概要、001用語の定義、002面積・高さ等の算定					
第3回	003・004手続					
第4回	006一般構造、（007建築設備）					
第5回	008・009構造強度					
第6回	011防火規定					
第7回	012避難規定					
第8回	013道路及び壁面線					
第9回	014用途地域					
第10回	015・016規模の規制					
第11回	017防火地域制、018建築士法、（005適用）					
第12回	019バリアフリー法、耐震改修促進法、品確法					
第13回	020その他関係法令					
第14回	期末テスト対策 全体まとめ					
第15回	期末テスト対策 全体まとめ					
第16回	期末試験（法規テスト）					